

令和4年度第3回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 1 日 時 令和5年3月20日（月） 午後2時00分～午後3時30分
- 2 場 所 市役所5-2会議室（オンライン併用）
- 3 出席者 委 員 小俣副会長、室星委員、小林委員、山田委員、原委員
渡邊委員、田川委員
事務局 環境経済部長、環境政策課長、環境保全係長、主事2名
委託事業者 (株)パシフィックコンサルタンツ（以下、PCKKとする）
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 (1) 令和4年度座間市地下水保全基本計画中間検証事業について
(2) 令和4年度座間市地下水総合調査事業委託について
(3) 令和4年度地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託等の結果について
(4) 湧水ざまップの改訂について
(5) その他
- 7 配布資料
- 資料① 座間市地下水保全基本計画中間検証（案）
資料② 座間市地下水保全基本計画中間検証《概要版》（案）
資料③ 令和4年度座間市地下水総合調査事業委託
資料④ 有機フッ素化合物調査結果（令和4年度1月実施分）
資料⑤ 有機フッ素化合物調査分布結果
参考資料 令和4年度 有機フッ素化合物に係る座間市内継続監視調査結果

8 議 事

(1) 令和4年度座間市地下水保全基本計画中間検証事業について

① 事務局から「座間市地下水保全基本計画中間検証（案）」について説明

・事務局

本年度第1回目の座間市地下水保全連絡協議会において説明しましたが、座間市地下水保全基本計画について、資料①、②のとおり、これまでの地下水総合調査の結果を反映した中間検証を行いました。

② 質疑応答

小林委員 計画・目標が定量的ではないため、進捗度の評価が難しいと思います。少なくとも、計画したけれどもできなかったものが何かがわかると良いと思います。例えば、座間市環境基本計画年次報告書では進捗度がA、B、C、Dの段階に分けて評価されており、大変わかりやすいです。このような評価はできないでしょうか。

事務局 10年間の現計画の中間検証では、進捗度を具体的に評価する予定はありませんが、3年後に改定する計画では、ご意見を踏まえて検討したいと思います。

(2) 令和4年度座間市地下水総合調査事業委託について

① 事務局から「令和4年度座間市地下水総合調査事業委託」について説明

・本年度第1回目の座間市地下水保全連絡協議会でお伝えしたとおり、平成29年度から昨年度までに5か年をかけて作り上げたGETFLOWSを用いて、資料③のとおり新たな2つのシナリオを解析するべく、令和4年度座間市地下水総合調査事業を行いましたので報告します。

② 質疑応答

事務局 12～13ページの土地利用の設定イメージ図は現況ですか。

PCKK そのとおりです。

事務局 可能ならば変更後の土地利用の設定イメージ図も図示してほしいです。

PCKK 承知しました。

小林委員 シナリオ解析の結果は、9つとも深井戸A1号井の地下水位のピーク状態で評価していますが、中間検証の20ページにある水収支図はとても分かりやすいので、水収支の変化で評価できないですか。

PCKK 中間検証の20ページにある水収支図はシミュレーションとは異なる方法で集計した結果なので、シミュレーション結果と比較するのは難しいです。

事務局 中間検証の20ページにある水収支図は基本計画策定時の集計結果です。最新の水収支図については、3年後の計画改定の時に最新の集計値を積み上げて見直して行く予定です。「湧水ざまップ」などもデータとしては古くなっているので時期を見て最新のものに改めていきたいと思っています。

小林委員 2ページの昨年度のシナリオ解析で、富士山の噴火を想定したものがありますが、火山灰の堆積をどのくらいの厚みと想定していますか。災害想定では相模原あたりで30cmくらいであったと記憶しています。

PCKK 当該シナリオ（シナリオ6）では、火山灰の堆積の厚さを解析条件とはせず、地表面から水が浸透しにくくなると考えて、現況より地表面の透水性を低くしています。

小林委員 そのような説明を資料にも記載してほしいです。

PCKK 昨年度の同協議会の資料では当該シナリオの解析条件について詳細を示していると思います。本日の資料で詳細をお伝えできていないことについてはご容赦いただきたいと思っています。

小林委員 どのような解析条件かは説明で分かったので了解しました。

(3) 令和4年度地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託等の結果について

① 事務局から「令和4年度地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託等の結果」について説明

- ・有機フッ素化合物分析について、令和5年1月26日に採水した市内6地点の地下水の調査結果が出ましたので報告します。詳細は資料5のとおりですが、相模が丘の井戸でPFOS及びPFOAの合算値が20 ng/L、ひばりが丘の井戸で22 ng/L、南栗原の井戸で18 ng/L、南栗原の湧水で14 ng/L、緑ヶ丘の井戸で10 ng/L、新田宿の井戸で14 ng/Lとなり、6地点すべてで暫定目標値を下回りました。続いて資料6についてですが、令和4年10月21日に神奈川県で行った市内の調査結果が2月に公表されましたので、参考資料として添付しています。この調査では、緑ヶ丘の地下水で暫定目標値を超過しました。なお、資料6には、この調査結果についても追記しています。結果については以上ですが、有機フッ素化合物については、今後も継続調査により、市内の分布状況の把握に努めます。

② 質疑応答

- 小林委員 アメリカでは日本の暫定目標値に値する50ng/Lの見直しが検討されています。決定ではありませんが、年内にも4ng/Lになるのではないかとの話もあるようなのですが、これが採用されると測定範囲を広げる必要があるのではないかと思います。また、これを処理する方法はあるのでしょうか。
- 事務局 測定範囲については、今後の国、県の動向に注視し、有識者の意見を参考に対応してまいります。また、除去の方法は、環境部局に対して国や県からの通知等はきておりません。
- 田川委員 上下水道部局へも同様にありません。
- 小林委員 処理設備の開発はされているのでしょうか。
- 事務局 環境部局へはそのような情報はきておりません。
- 田川委員 活性炭により除去されているという情報はあるようですが、確定した情報ではありません。また、上下水道部局に対しても厚生労働省から情報はありません。現在は情報収集をしている段階です。

(4) 湧水ざまップの改訂について

① 事務局から「湧水ざまップの改訂について」について説明

- ・前回の同協議会において、各委員から改訂のコンセプトについて様々な御意見をいただきました。意見の詳細は既に議事録として、各委員宛に送付をしているところですが、「更新に伴う費用を最小限に抑えるため、現行の湧水ざまップのコンセプトは変更しない。ただし、鮮度の古いデータのみ更新する」というコンセプトに賛同いただきました。その他、改訂にあたり、文書表現や見せ方の工夫等、様々な御意見をいただきましたので、次回以

降の協議会の中でさらに意見をいただきながら改訂の準備を進めていきたいと考えています。

② 質疑応答

なし